



幕末を生き抜いた能力と知識のゼネラリスト

やまだ とつさい

生誕200年 笠松の画人「山田 訥齋」

山田 訥齋は文化11年(1814年)に笠松に生まれ、明治6年(1874年)に60才で病死しました。まさに、江戸末期から明治初期の激動の時代を生き抜いた、ふるさとの偉人です。

また、今年ちょうど生誕200年にあたります。では、山田 訥齋とはどんな人だったのでしょうか。訥齋の名前は惟孝(これたか)で、訥齋は号です。祖父、父親ともに薬屋を家業としていました。訥齋は幼少の頃に父を亡くし、以後は母親に育てられました。訥齋はよく勉強し、性格も温厚で、品行方正でした。

訥齋は広瀬 春樵や山本 梅逸などに師事し、画風を磨いていきました。訥齋は山水画(写真)をもっとも得意としていました。

次第に技量が高まるにつれ、訥齋の書画を買い求める人が、各地から殺到しました。1日に数十幅もの作品を描くこともあったということです。

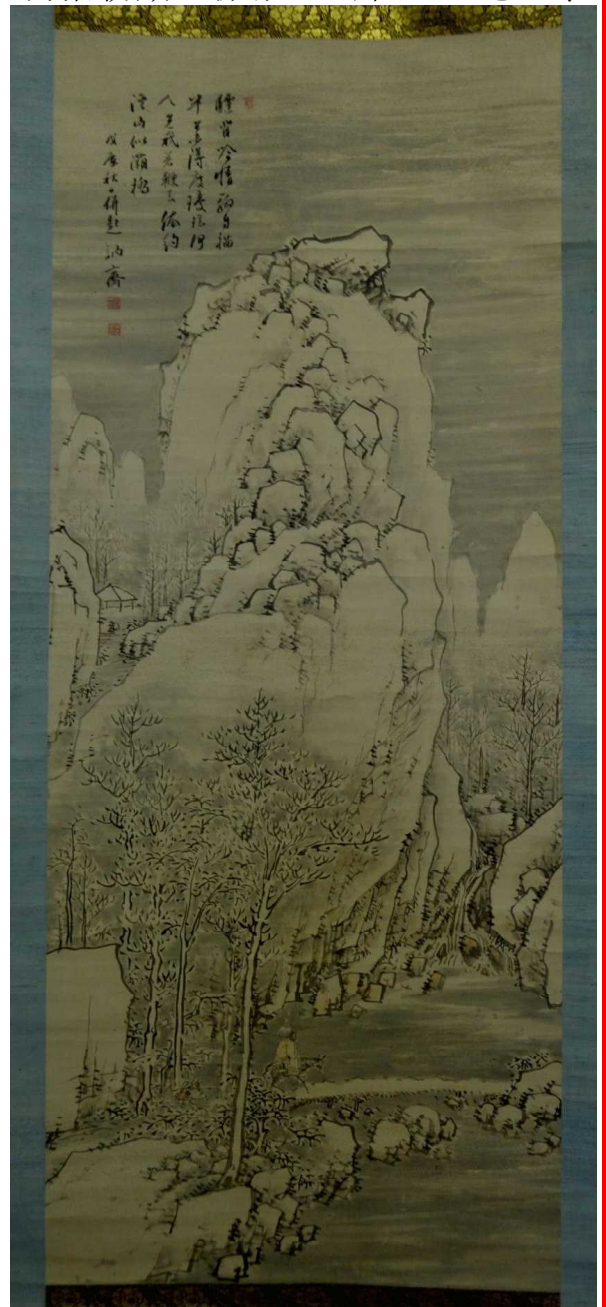
訥齋は、山水画だけではなく、詩文をはじめ、篆刻(てんこく)や囲碁、茶道、華道、和歌も巧みでした。まさに、ゼネラリストでした。

また、芸能に対する熱意も大変強かったようです。名古屋に虎が来たと聞くと、遠路なのにすぐに虎を見に出かけ、写生をしました。

訥齋の人となりは温厚で落ち着いており、みだりに人に逆らうことはありませんでした。しかし、正しいことを正しいとしなかったときには、目をつり上げて、毅然として自分の意見を主張しました。

晩年は大切な友達と静かに語り合い、ゆったりとした余生を送りました。

明治6年1月28日に病気で60才で亡くなり、笠松の福證寺(ふくしょうじ)に葬られました。



雪中溪山濤画

笠松町歴史民俗資料館所蔵(寄贈者 臼井弘行氏)